

2022年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

小論文 【夜間主コース 学校推薦型選抜・社会人入試】 【昼間コース 帰国子女入試】		
出題意図		評価ポイント
<p>【出題意図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最近でも、アメリカ合衆国軍のドローン攻撃により誤ってアフガン市民が殺傷されたことが物議を醸したように、ドローンの戦争利用の倫理的是非は現代社会において喫緊の国際的問題となっている。受験者が、このような社会問題に対する関心を日頃から強く持ち、メディアや書籍などを通じて知識を独自に収集し、自立的に思考してきたか否かを見極めたい。 ・ 受験者が、テキストの中で述べられている他者の主張とその論拠を正確に読み取り、また簡潔に整理する能力があるか否かを見極めたい。 ・ 受験者が、他者の立論の弱点を適切に批判し、なおかつ自身の主張を論理的・説得的に論証できる能力があるか否かを見極めたい。 	問1	<p>以下の三つの点が言及されていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドローンは正確な仕方で適当な軍事目標をそうでないものから区別しうる。 ・ ドローンは付随的被害を回避したり最小限にしたりできる可能性がある。 ・ ドローンは自国兵士の死傷者の数を減らしうる。
	問2	<p>たとえば次のような反対の論拠が適切な論理に従って提示されていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦争それ自体が人間の生命という絶対的価値を毀損し悪であること(反戦主義) ・ ドローン兵器の投入を認めてしまえば、自律型ロボット兵器の戦場投入には歯止めが効かなくなり、近い将来、自律型人型ロボット兵器が大量投入されるといような、より倫理的に懸念のある事態になる危険性がある(滑り坂論法) ・ 攻撃側のみがリスクを負わない攻撃は対称性を欠き卑怯なものであること(決闘の美德)。とりわけ市民との関係において、そのような非対称性があること。 ・ ドローンによる戦争頻度の増加と国際秩序の不安定化(帰結からの反論) ・ 一般に、ドローン兵器を使用することは、戦闘の参加者の PTSD のリスクを軽減するものと言われているが、その一方で、攻撃および殺傷場面を近接カメラで直視してしまうことで、むしろ操作者の PTSD のリスクを向上させる可能性も指摘されていること。